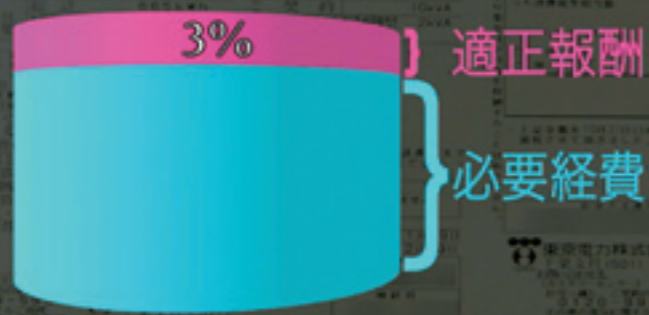


建設費用

1兆円→3%→300億円

総括原価方式



高価な原発を造れば造るほど儲かる仕組みだった



岡江久美子さん登場のNUMOのCM

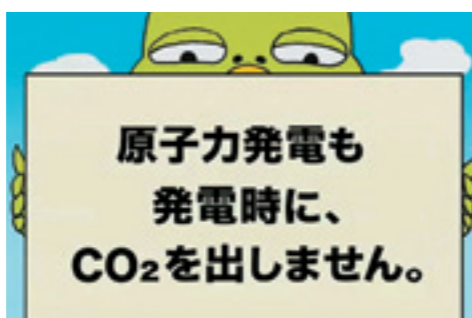
高価なほど、造れば造るほど「電力会社が儲かる仕組み」だったからだ。結果、どうなったか？

日本人は、先進国で最高水準のバカ高い電気料金を支払われているのだ。

CMに話を戻そう。日本の電力会社が「電気事業連合会」を作っていて、現在は関電の八木社長が会長を

務めている。この「電事連」もCMを流していた。これは池の中から謎の「エコガッパ」が現れ、やはり「原発は発電時にCO₂を出しません」と宣伝する。子どもがこれを見ればどう思うか？

「原発は地球温暖化の切り札で、クリーンなんだ。巨費を使って子どもだましのウソ宣伝をするな！」と怒らねばならない。



電気事業連合会のCM「エコガッパ編」

さらに電力会社の傘下には「天下り、子会社」がいる。例えば「原子力発電環境整備機構」(NUMO)のCMは、「使用済み核燃料をどこで処分すればいいか？」について、「地下300mの穴を掘って、そこに埋めよう」と説明。最後に女優の岡江久美子が「私は、(最終処分

「原発マネー」に群がったマスコミと文化人は

現在、東電の賠償金は数兆円に上るとされる。CMを流す金があるなら、その金を被災者に回すべきだ。原発事故後、東電の「おわ

場が(必要だと思えます)」。おいおい、ちょっと待ってくれ！周囲2m以内に近づくと、即死するといわれる危険さわまりない「高レベル核廃棄物」は、無害になるまで10年から100万年かかる。神戸の六甲山は、100万年前は海の底だぞ。地震の震源は地下数キロメートルの場合が多い。そんな危険なものを日本のどこに埋める？

答え。埋める場所がない。ではどうするか？

毎日新聞のスクープによれば、「モンゴルの大平原に埋める」そうだ。

原発はまさに「トイレのないマンション」で、原発を動かす限りどんどん使用済み核燃料が出てきて、その処分に多額の経費が必要になる。だから私は「即刻、止めるべし」と考えている。



西谷文和のDVD戦争あかんシリーズ⑤、「原発～その利権の構造～」(映像32分、11年8月作成)を5名の方にプレゼントします。DVDご希望の方は、最終面に記載のメールがファックスまで。当選発表は発送に代えさせていただきます。

びCM」が流れた。本当におわびする気持ちがあるのなら、役員報酬を全て返上し、全てのCMは中止、そして福島で今なお、避難所暮らしをしている人の元に戻っていくべきだ。

そしてテレビ局、新聞社など「原発マネー」に群がったマスコミや、北野たけし、アントニオ猪木、草野仁など「原発文化人たち」は、東北の人々に謝罪して、今までのCM出演料や新聞・雑誌の原稿料などを募金すべきなのだ。

次号は、「原発はCO₂を出さないのか？」について検証したい。

フリージャーナリスト 西谷文和

関電はなぜCMを流すのか

マスコミを支配して「原発安全神話」が

問題が読み上げられる。「水力や太陽光発電は発電時にCO₂を出さない」。みんなソロソロとYESの方へ移動する。「これは簡単だね」と元阪神の星野監督。「では原子力発電は発電時にCO₂を出さない」。みんな迷いながら、YESとNOを行き交う。「原子力発電は発電時にCO₂を出しません」。正解が読み上げられ、画面にOの大字。「ゼロかぁー」「ゼロなんだー」。驚きの声とともに星野監督が大笑しになり、「いいねー、真つすぐ低炭素の社会へ」。福井の原発の写真をバックに、「関西電力」のロゴ。

福島原発事故後、このCMは全く流れなくなったが、昨年末で関電は「星野監督バージョン」、東電は「草野仁バージョン」など、電力会社は原発に関するCMをバンバン流していた。ここではなぜこのようなCMが流れていたのか、について検証しよう。

「ここに車が欲しい人がいる」としよう。その人はトヨタにするか日産にするか迷っている。そんな時にトヨタのCMが流れる。「よし、プリウスを買おう」。これがCMの効果である。

一方関西電力はどうか？ 関電は地域独占の企業である。関西に住んでいる以上、電気を使いたければ必ず関電と契約しなければならない。つまり、関電も東電も

CMを流す必要がない。黙っていても契約してもらえのだから。



関電のCM「YES NO 編」

ではなぜ関電や東電は、不必要なCMを流していたのか？

その答えは電気料金の仕組みにある。

私たちの電気代は、「総括原価方式」で決定される。電気代は電気を作るのにかかった必要経費と、電力会社が受け取る3%の適正報酬を足した額で決まる。原発CMは「原子力発電の効果を生しく知ってもらおう」ための「経費」であるから、CM料金は、電気代金に含まれてしまう。つまり関電は、CMをいくら流しても、自分の腹は痛まない。後から電気代として回収できる。

一方、テレビ局はどうか？ 冒頭の「星野監督出演 原発YES OR NO編」を、一回流して仮に100万円だとする。一日10回流れれば、それだけで1千万のCM収入が、読売放送、関西テレビ、毎日放送、朝日放送などに転がり込む。結果、「原子力は安全です」「クリーンなエネルギー」というウソのCMがお茶の間に流れる。

逆に「原発は地震が来たら壊れるよ」「チェルノブイ

どうして処分するのか、使用済み核燃料

この電気代の仕組みを総括原価方式は、電力会社は喜ぶが、私たち庶民にとってはとても問題のある制度である。

例えば福井県の「もんじゅ」あれは約1兆円もかけた、危険さわまりない「壮大な無駄遣い」であるが、電力会社は1兆円×3%＝300億円を、適正報酬として手に入れる。仮に「もんじゅ」を節約して1000億円で作ってしまったら、30億円しか儲からない。日本に高価な原発が、なぜ54基も造られていったのか？

それは「原発が高価なら